

中日精工(愛知・豊川市)

歯切り加工「貫加工」工程で実績



森久宏社長(左)、山本哲司専務(右)

例えば、プロ野球のシーズン開幕当初にホームランを量産した打者に対し、レポーターなどが「このままのペースでいくと年間100本は打てますね」といった類のフレーズをよく耳にする。絶対にそんなことはあり得ず、何とも能天気な発言なのだが、この「このままいくと…」が実践されつつあり、従来比で、驚くべき加工効率もたらせられようとしている生産加工現場がある。

Nine9社製 インサート式センタードリル 『i-Center』ユーザー訪問

愛知県豊川市に所在する中日精工のピニオンシャフト加工ラインがその現場だ。ここではつい先頃、台湾の切削工具メーカーNine9(ナインナイン)社製のインサート式センタードリル『i-Center』(アイセンター)が導入されており、従来使用しているハイスセンタードリルから、その立場を取って代わろうとしている。

まだまだ「お試し」期間中の域ではあるものの、既に一週間程度「8倍」の刃物寿命を示していることから、まさしく「このままいくと…」が立証されようだ。

中日精工は、昭和41年の創業(設立時は豊橋市)以来、目覚ましい発展を続ける自動車産業界を主なフィールドとし、ステアリング、エンジン、ミッション等々の特殊歯車を中心とした重要保安部品を生産を手掛け、特に「貫した生産工程を引き受ける」ことで定評がある。

「図面一枚をいただければ、小口からロットものまで、歯切り加工をメインに前後工程の焼入、組立、製品検査などに至るまで、一貫したシステムでお応えするので、メーカーさ

んからすれば「使い勝手が良い」存在となる。森久宏社長、山本哲司専務は自社の「強み」を揃ってこう話す。

このベースには「出来ないものはない」という先代社長(現会長)の営業方針が息づいており、その積み重ねこそが、結果、トータル加工工程を生み出している。加えて、取引先は特定のグループや系列に偏らず、複数メーカーと付き合うことで景気に左右されず、安定を図ることに繋がっているという。

「かつては、国内の自動車メーカー関係の仕事が主力で、その頃は現在の約2倍ほどの業績があった。だが、世の中の景気が悪かったわけではなかったが、海外シフトや内製化で、中途半端に仕事が残りに残りに、いっそのこと」と、そのメーカーの仕事全てを捨ててしまったのだが、逆にこれが「体質改善」ともなった。

これを契機に、「中日さん、仕事空いたの？」と、逆に、引く手あまたとなったという、同社の技術力が衆知されていることを物語るエピソードもある。

その甲斐あってか、「リーマンショックもさほど影響はなかった」と振り返るが、やはり、「押し寄せる現地調達波」、「先細りする国内市場」を受け、海外シフトも視野には「実は、相当あった」と苦笑する。

「東南アジア、特にタ

センター穴加工にインサート式『i-Center』を使用

ただ今、8倍の寿命を実証中!



ロボドリルに搭載されたi-Center(中央)

「リーマンショックもさほど影響はなかった」と振り返るが、やはり、「押し寄せる現地調達波」、「先細りする国内市場」を受け、海外シフトも視野には「実は、相当あった」と苦笑する。

「東南アジア、特にタ

「米国発の仕事で、海外大手自動車部品メーカーに製品を輸出している。これは「国内で生き残っているからこそ」の仕事だと自負し社」を強調する。

そんな中、「年間でトータルすると売上高の推移はここ数年そう変わらない」とはいえ、「ただし、原価率は上がった」という現実も、あり、あらゆる加工、生産効率の改善や提案を余儀なくされることろだ。しかし、例えば「工具を変える」ことは、同社のような協力工場という立場の生産加工現場に於いては、非常に「勇気のいる」ことでもある。だが、同社のこれまでの実績が「提案したことを聞いていただける『位置付け』」に於ける「i-Center」導入も同社の新たな「提案力」となるだろう。

「i-Center」は、馴染みの工具販売である新栄商會に兼ね

「使いあたりを検討しているが、材料ひとつとつてみても「特殊」なところが多く、コストメリットやスタッフのことを考えると「国内でやれるところまでやろう」となり、現在に至っている。

だが、この「国内でなんとかやる方法」がまた逆に、海外から仕事を呼び寄せる伏線となり、直近、芽吹いている。



i-Centerが成果を上げるピニオンシャフト加工ライン

現在のカーメーカの「編成図」を鑑みれば、当然、現調の流れは止まらないのだろうが、日本製の部品を、この豊川から発信していきたい。

これからは「世界との競争力」が持てる企業という新たなステージに向け、再び基本に返っての、「メーカーさんの使い勝手の良い会社」を強調する。

そんな中、「年間トータルすると売上高の推移はここ数年そう変わらない」とはいえ、「ただし、原価率は上がった」という現実も、あり、あらゆる加工、生産効率の改善や提案を余儀なくされることろだ。しかし、例えば「工具を変える」ことは、同社のような協力工場という立場の生産加工現場に於いては、非常に「勇気のいる」ことでもある。だが、同社のこれまでの実績が「提案したことを聞いていただける『位置付け』」に於ける「i-Center」導入も同社の新たな「提案力」となるだろう。



Improvement or Innovation

『センタードリルは、次のステージへ。』

インサート式センタードリル「i-Center (アイセンター) なら、ホルダーは固定したままインサートを交換するだけでOK!

従来品と比べ、刃物交換時の位置決めの手順を省くことができるので、サイクルタイム短縮が実現。しかも、これなら位置決めミスがないから安心。

インサートは超硬で長寿命、2コーナー使用可能でコストパフォーマンスは良好!

これは、もはや、今すぐ使うしかない。

JIMTOF 2012
2012年11月1日(木) - 11月6日(火)

詳しくはJIMTOFブース
西1ホール「W1049」にて!



Improvement or Innovation

TOOL de INTERNATIONAL

ツールドインターナショナル株式会社

〒156-0052 東京都世田谷区経堂 2-6-1-2H TEL : 03-3427-7937 FAX : 03-3427-7938

http://www.toolde.co.jp E-mail : info@toolde.co.jp

ツールドインター

GO